

平成23年度 財政状況資料集

総括表（市町村）

都道府県名	新潟県		市町村類型	II-1	指定団体等の指定状況		区分		平成23年度(千円)	平成22年度(千円)	区分		平成23年度(千円・%)	平成22年度(千円・%)					
					財政健全化等	×	歳入総額	35,365,427	34,681,584	実質収支比率	3.8	2.0							
市町村名	南魚沼市		地方交付税種地	1-2	財源超過	×	歳出総額	34,358,959	33,878,098	經常収支比率	90.7	88.6							
					首都	×	歳入歳出差引	1,006,468	803,486	(※1)	(97.2)	(96.6)							
					近畿	×	翌年度に繰越すべき財源	265,528	405,980	標準財政規模	19,401,017	19,654,622							
						×	実質収支	740,940	397,506	財政力指数	0.45	0.47							
人口	22年国調(人)	61,624	産業構造(※5)		中部	×	単年度収支	343,434	-149,918	公債費負担比率	16.8	16.8							
	17年国調(人)	63,329			過疎	×	積立金	8,087	1,000	健全化判断比率									
	増減率(%)	-2.7			山振	○	繰上償還金	-	-	実質赤字比率	-	-							
住民基本台帳人口	24.03.31(人)	60,316	第1次	3,668	4,060	低開発	○	積立金取崩し額	400,000	30,000	連結実質赤字比率	-	-						
	23.03.31(人)	60,885		12.0	12.6	指数表選定	○	実質単年度収支	-48,479	-178,918	実質公債費比率	19.1	20.7						
	増減率(%)	-0.9		9,081	10,221			基準財政収入額	6,536,301	6,557,465	将来負担比率	158.1	155.9						
面積(km ²)	584.82		第2次	29.6	31.6			基準財政需要額	14,851,227	14,931,658	資金不足比率(※4)								
人口密度(人/km ²)	105			17,886	18,045			標準税収入額等	8,387,132	8,413,497									
世帯数(世帯)	19,482			58.4	55.8			經常経費充当一般財源等	17,756,305	17,644,501									
職員等の状況																			
特別職等	区分	定数	1人あたり平均給料月額(百円)	一般職員等	区分	職員数(人)	給料月額(百円)	1人あたり平均給料月額(百円)	地方債現在高	38,111,399	36,604,914								
	市区町村長	1	8,433		一般職員	681	2,147,874	3,154	うち公的資金	27,722,332	25,173,388								
	副市区町村長	1	6,447		うち消防職員	103	305,910	2,970	債務負担行為(支出予定額)	969,154	1,309,341								
	教育長	1	5,858		うち技能労務職員	86	256,796	2,986	収益事業収入	-	-								
	議会議長	1	3,992		教育公務員	-	-	-	土地開発基金現在高	-	-								
	議会副議長	1	3,493		臨時職員	-	-	-	積立金現在高	2,407,073	2,798,986								
	議会議員	24	2,994		合計	681	2,147,874	3,154	減債基金	217,339	436,994								
					ラスパイレス指数(※6)	100.8	(93.2)		その他特定目的基金	2,891,520	3,071,239								
	一般会計等の一覧																		
	項番	会計名	事業会計の一覧			公営企業(法適)の一覧			公営企業(法非適)の一覧						関係する一部事務組合等一覧		地方公社・第三セクター等一覧		(※3)
(1)	一般会計	(3)	国民健康保険特別会計	(6)	水道事業会計	(8)	下水道特別会計	(9)	新潟県後期高齢者医療広域連合(一般会計)	(19)	財団法人しゃくくげ湖群開発公社								
(2)	城内診療所特別会計	(4)	介護保険特別会計	(7)	病院事業会計			(10)	新潟県後期高齢者医療広域連合(後期高齢者医療特別会計)	(20)	財団法人南魚沼市文化スポーツ振興公社								
		(5)	後期高齢者医療特別会計					(11)	新潟県市町村総合事務組合(一般会計)	(21)	六日町街づくり株式会社								
								(12)	新潟県市町村総合事務組合(職員退職手当支給事業特別会計)	(22)	株式会社アグリコア								
								(13)	新潟県市町村総合事務組合(消防団員等公務災害補償事業特別会計)	(23)	南魚沼地域土地開発公社								
								(14)	新潟県市町村総合事務組合(消防費じゅつ金支給事業特別会計)										
								(15)	新潟県市町村総合事務組合(非常勤職員公務災害補償等事業特別会計)										
								(16)	新潟県市町村総合事務組合(交通災害共済事業特別会計)										
								(17)	魚沼地区障害福祉組合										
								(18)	魚沼地域特別養護老人ホーム組合										

(注釈) ※1: 經常収支比率の()内の数値は、「減収補填債(特例分)」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。
 ※2: 各会計の一覧は主な会計(10会計まで)を記載している。
 ※3: 地方公共団体が損失補填等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に○印を付与している。
 ※4: 資金不足比率欄には、資金が不足している会計のみ記載している。
 ※5: 産業構造の比率は、分母を就業人口総数とし、平成22年国調は分類不能の産業を除き、平成17年国調は分類不能の産業を含んでいる。
 ※6: ラスパイレス指数の()内の数値は、国家公務員の時限的な(2年間)給与改定特例法による措置が無いとした場合の値である。

(1) 普通会計の状況(市町村)

歳入の状況(単位:千円・%)				地方税の状況(単位:千円・%)				
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	区分	収入済額	構成比	超過課税分
地方税	7,532,185	21.3	7,347,768	40.2	普通税	7,363,986	97.8	48,938
地方譲与税	359,150	1.0	359,150	2.0	法定普通税	7,363,986	97.8	48,938
利子割交付金	19,647	0.1	19,647	0.1	市町村民税	2,629,458	34.9	48,938
配当割交付金	8,484	0.0	8,484	0.0	個人均等割	93,011	1.2	-
株式等譲渡所得割交付金	2,064	0.0	2,064	0.0	所得割	1,879,221	24.9	-
地方消費税交付金	597,804	1.7	597,804	3.3	法人均等割	231,684	3.1	-
ゴルフ場利用税交付金	-	-	-	-	法人税割	425,542	5.6	48,938
特別地方消費税交付金	-	-	-	-	固定資産税	4,159,775	55.2	-
自動車取得税交付金	77,443	0.2	77,443	0.4	うち純固定資産税	4,136,845	54.9	-
軽引取税交付金	-	-	-	-	軽自動車税	157,214	2.1	-
地方特例交付金	87,753	0.2	87,753	0.5	市町村たばこ税	417,539	5.5	-
児童手当及び子ども手当特例交付金	39,538	0.1	39,538	0.2	釧路税	-	-	-
減収補填特例交付金	48,215	0.1	48,215	0.3	特別土地保有税	-	-	-
地方交付税	11,203,180	31.7	9,721,236	53.2	法定外普通税	-	-	-
普通交付税	9,721,236	27.5	9,721,236	53.2	目的税	168,199	2.2	-
特別交付税	1,471,751	4.2	-	-	法定目的税	168,199	2.2	-
震災復興特別交付税	10,193	0.0	-	-	入湯税	32,720	0.4	-
(一般財源計)	19,887,710	56.2	18,221,349	99.7	事業所税	-	-	-
交通安全対策特別交付金	8,993	0.0	8,993	0.0	都市計画税	135,479	1.8	-
分担金・負担金	674,118	1.9	-	-	水利地益税等	-	-	-
使用料	971,612	2.7	-	-	法定外目的税	-	-	-
手数料	348,056	1.0	-	-	旧法による税	-	-	-
国庫支出金	3,009,869	8.5	-	-	合計	7,532,185	100.0	48,938
国有提供交付金(特別区財調交付金)	-	-	-	-				
都道府県支出金	2,712,223	7.7	-	-				
財産収入	119,747	0.3	37,729	0.2				
寄附金	30,079	0.1	-	-				
繰入金	822,038	2.3	-	-				
繰越金	803,486	2.3	-	-				
諸収入	1,010,796	2.9	6,751	0.0				
地方債	4,966,700	14.0	-	-				
うち減収補填債(特例分)	-	-	-	-				
うち臨時財政対策債	1,292,600	3.7	-	-				
歳入合計	35,365,427	100.0	18,274,822	100.0				

区分		平成23年度		平成22年度	
徴収率	現・計	97.0	82.2	97.0	82.4
(%)	年	98.4	92.2	98.4	92.1
		95.8	75.6	95.8	76.1

公営事業等への繰出		国民健康保険事業会計の状況	
合計	5,019,133	実質収支	111,712
下水道	1,609,922	再差引収支	69,333
病院	826,318	加入世帯数(世帯)	9,168
上水道	665,268	被保険者数(人)	17,613
介護サービス	57,813	被保険者	97
国民健康保険	368,962	1人当り	82
その他	1,490,850	保険料(料)収入額	220
		国庫支出金	82
		保険給付費	220

(注釈)
 普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、
 単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

歳入の状況(単位:千円・%)					
目的別歳入の状況(単位:千円・%)					
区分	決算額(A)	構成比	(A)のうち普通建設事業費	(A)のうち充当一般財源等	
議会費	249,010	0.7	-	249,010	
総務費	3,052,431	8.9	432,183	2,345,579	
民生費	8,576,565	25.0	357,656	4,927,269	
衛生費	4,514,765	13.1	627,849	3,153,279	
労働費	233,779	0.7	4,080	39,995	
農林水産業費	1,132,014	3.3	166,203	865,938	
商工費	968,221	2.8	465,822	360,160	
土木費	4,252,058	12.4	1,416,446	2,789,391	
消防費	1,678,545	4.9	613,252	817,199	
教育費	3,332,945	9.7	1,127,136	1,889,301	
災害復旧費	2,341,414	6.8	-	525,694	
公債費	4,027,140	11.7	-	3,824,359	
諸支出席	72	0.0	72	72	
前年度繰上充用金	-	-	-	-	
歳出合計	34,358,959	100.0	5,210,699	21,787,246	

性質別歳入の状況(単位:千円・%)					
区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率
義務的経費計	13,581,639	39.5	10,036,740	9,771,248	49.9
人件費	5,442,944	15.8	4,571,714	4,560,041	23.3
うち職員給	3,713,005	10.8	2,896,938	-	-
扶助費	4,111,555	12.0	1,640,667	1,386,848	7.1
公債費	4,027,140	11.7	3,824,359	3,824,359	19.5
元利償還金	4,026,605	11.7	3,823,824	3,823,824	19.5
内 うち元金	3,460,215	10.1	3,257,434	3,257,434	16.6
訳 うち利子	566,390	1.6	566,390	566,390	2.9
一時借入金利子	535	0.0	535	535	0.0
その他の経費	13,225,207	38.5	10,263,124	7,985,057	40.8
物件費	4,282,473	12.5	2,389,327	2,027,614	10.4
維持補修費	1,594,898	4.6	1,283,927	1,124,297	5.7
補助費等	3,587,753	10.4	3,313,553	1,656,806	8.5
うち一部事務組合負担金	74,189	0.2	74,189	74,189	0.4
繰出金	3,527,547	10.3	3,274,915	3,176,340	16.2
積立金	17,606	0.1	165	-	-
投資・出資金・貸付金	214,930	0.6	1,237	-	-
前年度繰上充用金	-	-	-	-	-
投資的経費計	7,552,113	22.0	1,487,382	-	-
うち人件費	263,470	0.8	202,370	-	-
内 普通建設事業費	5,210,699	15.2	961,688	-	-
うち補助	2,092,420	6.1	138,394	-	-
うち単独	3,095,574	9.0	820,789	-	-
災害復旧事業費	2,341,414	6.8	525,694	-	-
失業対策事業費	-	-	-	-	-
歳出合計	34,358,959	100.0	21,787,246	-	-

(2)各会計、関係団体の財政状況及び健全化判断比率（市町村）

平成23年度 新潟県南魚沼市

一般会計等の財政状況(単位:百万円)

会計名	歳入	歳出	形式収支	実質収支	他会計等からの繰入金	地方債現在高	備考
1 一般会計	35,028	34,042	986	721	822	38,129	
2 城内診療所特別会計	451	431	20	20			
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							
32							
33							
34							
35							
36							
37							
38							
39							
40							
41							
42							
43							
44							
45							
46							
47							
48							
49							
50							
51							
52							
53							
54							
55							
56							
57							
58							
59							
60							
61							
62							
63							
64							
65							
66							
67							
68							
69							
70							
71							
72							
73							
74							
75							
76							
77							
78							
79							
80							
81							
82							
83							
84							
85							
86							
87							
88							
89							
90							
91							
92							
93							
94							
95							
96							
97							
98							
99							
100							
101							
102							
103							
104							
105							
106							
107							
108							
109							
110							
111							
112							
113							
114							
115							
116							
117							
118							
119							
120							
121							
122							
123							
124							
125							
126							
127							
128							
129							
130							
131							
132							
133							
134							
135							
136							
137							
138							
139							
140							
141							
142							
143							
144							
145							
146							
147							
148							
149							
150							
151							
152							
153							
154							
155							
156							
157							
158							
159							
160							
161							
162							
163							
164							
165							
166							
167							
168							
169							
170							
171							
172							
173							
174							
175							
176							
177							
178							
179							
180							
181							
182							
183							
184							
185							
186							
187							
188							
189							
190							
191							
192							
193							
194							
195							
196							
197							
198							
199							
200							
201							
202							
203							
204							
205							
206							
207							
208							
209							
210							
211							
212							
213							
214							
215							
216							
217							
218							
219							
220							
221							
222							
223							
224							
225							
226							
227							
228							
229							
230							
231							
232							
233							
234							
235							
236							
237							
238							
239							
240							
241							
242							
243							
244							
245							
246							
247							
248							
249							
250							
251							
252							
253							
254							
255							
256							
257							
258							
259							
260							
261							
262							
263							
264							
265							
266							
267							
268							
269							
270							
271							
272							
273							
274							
275							
276							
277							
278							
279							
280							
281							
282							
283							
284							
285							
286							
287							
288							
289							
290							
291							
292							
293							
294							
295							
296							
297							

(3) 市町村財政比較分析表(普通会計決算)

人口	60,316人	(H24.3.31現在)
面積	584.82km ²	
人口密度	103.3人/km ²	
総収入	35,365,427千円	
総支出	34,358,959千円	
実質収支	740,940千円	
標準財政規模	19,401,017千円	
地方債現在高	38,111,399千円	

実質赤字比率	- %
実質赤字比率	- %
実質公債費比率	19.1 %
実質公債費比率	168.1 %

市町村類型	H19	II-1	H20	II-1	H21	II-1
(年度毎)	H22	II-1	H23	II-1		

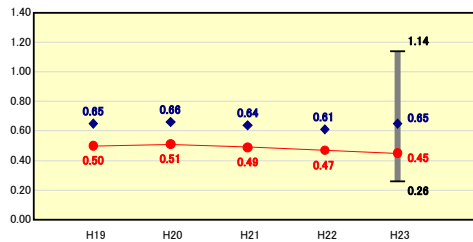
● 当該団体値
◆ 類似団体内平均値
T 類似団体内の最大値及び最小値

※市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※平成24年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率及び将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。
 ※充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体については、将来負担比率のグラフを表記しない。
 ※類似団体内平均値は、充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体を含めた加重平均であるため、最小値を下回ることがある。
 ※「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

財政力

財政力指数 [0.45]

類似団体内順位 150/195 全国平均 0.51 新潟県平均 0.52

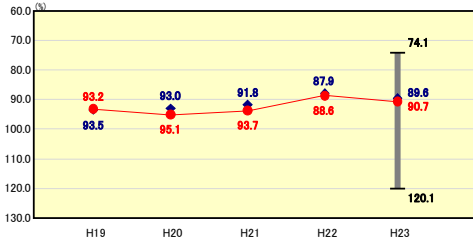


財政力指数の分析欄
過去5年間の傾向としてはほぼ横ばい状態であるが、平成20年度をピークに低下傾向にある。景気低迷による個人市民税の減収や喫煙者減少等による市たばこ税の減収等による基準財政収入額の減少と、合併特例債の償還額の増加等による基準財政需要額の増加により、前年度より0.02%下がっている。引き続き職員削減、人件費の抑制、内部経費の削減や市税の徴収強化等の取組みにより財政基盤の強化に努める。

財政構造の弾力性

経常収支比率 [90.7%]

類似団体内順位 115/195 全国平均 90.3 新潟県平均 88.7

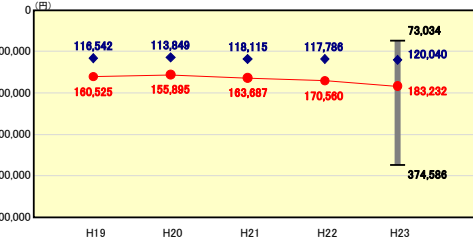


経常収支比率の分析欄
平成23年度から、域内診療所会計が病院会計から普通会計へ移行したことにより、経常的経費が増えたが、概ね類似団体平均と同レベルで推移している。団塊世代の大量退職時期を迎え、定員管理計画のもと今後も職員数の削減を進めていくものの、扶助費をはじめ増加傾向にあり、また、合併特例債の集中的発行により公債費も高い比率を占めている。今後も経常経費の圧縮に努め、現在の水準を維持するべく運営に注意する。

人件費・物件費等の状況

人口1人当たり人件費・物件費等決算額 [183,232円]

類似団体内順位 187/195 全国平均 119,477 新潟県平均 148,363

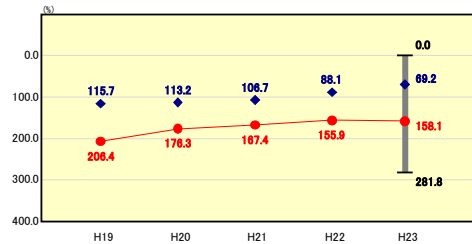


人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄
類似団体平均値との比較で+63,192円(52.6%)、県平均より+34,869円(23.5%)と、高い水準となっている。物件費の増加傾向によるもので、今年度は災害によるごみ処理委託料の増143万円、公設民営保育園管理委託料等の増加73万円、可燃ごみ処理施設管理委託料の増加77万円等が大きな原因となっている。

将来負担の状況

将来負担比率 [158.1%]

類似団体内順位 179/195 全国平均 69.2 新潟県平均 113.0

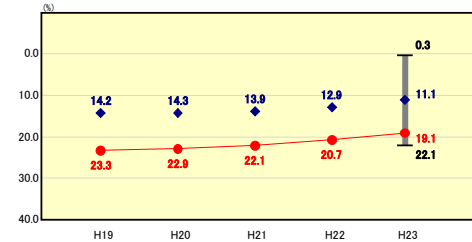


将来負担比率の分析欄
実質公債費比率同様に改善の傾向を示している。将来負担額については、地方債現在高と公営企業債等繰入見込額がほとんどを占めている。この二つを平成21年度と比較すると、合計で32億2,000万円の増加となっているが、これらに関連する基準財政需要額算入見込額の増加分が34億3,200万円を上回っている。また標準財政規模も大きく伸びたことにより、前年より11.5%下がり改善されている。引き続き、起債の抑制と優良債の活用により、将来負担額の削減に努める。

公債費負担の状況

実質公債費比率 [19.1%]

類似団体内順位 189/195 全国平均 9.9 新潟県平均 13.0

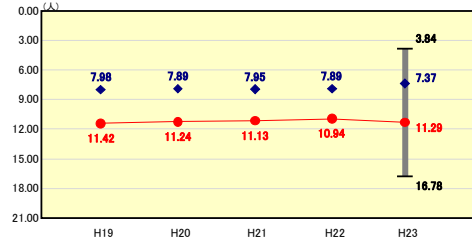


実質公債費比率の分析欄
一般会計における学校改革等の大規模事業や地方交付税の代替としての臨時財政対策債の発行、水道事業会計については企業団における浄水施設、送水施設の建設及びダムからの取水に対する国の負担金、下水道事業会計については新市の最重点課題として平成25年度の完成を目指した事業の推進により、市債発行額及び公債費は大きく膨らんだ。実質公債費比率は平成18年度をピークに24.6%まで上昇したが、補償金免除繰上償還や起債の抑制、優良債へのシフトにより改善の傾向にある。元利償還金の減少(前年比▲9,760万円)及び公営企業債の元利償還金に対する繰出金の減少(前年比▲1億2,957万円)等により、前年より1.6ポイント改善された。今後も投資的事業の厳選や優良債の活用等により18%以下を目指す。

定員管理の状況

人口千人当たり職員数 [11.29人]

類似団体内順位 186/195 全国平均 7.17 新潟県平均 8.89

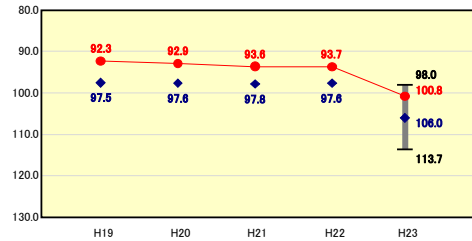


人口千人当たり職員数の分析欄
定員管理適正化計画に基づき、退職不補充等で職員減の方向であるが、直営保育施設の割合が高いことや、隣接町の消防救急事務を受託していることから、類似団体平均に比べ大きく開きがある。今後数年は大量退職の年が続くが、住民サービスを低下させるとのまいよう(ランス)をとりながら、保育・福祉施設等の民間委託、事務事業の見直しや事務の効率化等により適正規模に近づけていく。

給与水準(国との比較)

ラスパイルズ指数 [100.8]

類似団体内順位 8/195 全国市平均 106.9 全国町村平均 103.3



ラスパイルズ指数の分析欄
年齢構成の入れ替わりにより上昇傾向は収まりつつある。国家公務員の給与制度に準拠し、これまでも退職時特別昇給の廃止、高齢層職員の昇給停止、特殊勤務手当の見直し等を実施してきており、類似団体の中では低水準にある。今後も集中改革プランに沿って、給与体系の適正化に努める。

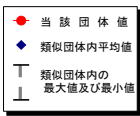
(4)-1 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

平成23年度

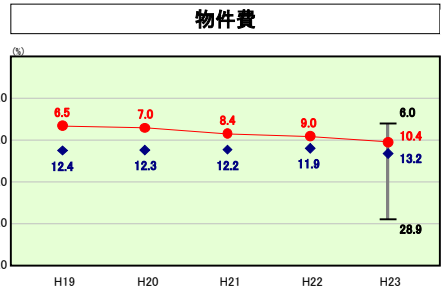
新潟県南魚沼市

経常収支比率の分析

人口	60,316	人(H24.3.31現在)	実収支	赤字比率	-	%		
面積	584.82	km ²	実収支	赤字比率	-	%		
入出総額	35,365,427	千円	将来負担	比率	19.1	%		
歳入	34,368,959	千円	市町村	類型	H19 II-1	H20 II-1	H21 II-1	H22 II-1
歳出	740,940	千円	(年度毎)		H23 II-1			
実収支	19,401,017	千円						
標準財政規模	38,111,399	千円						
地方債現在高								



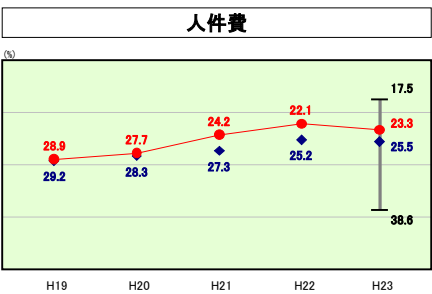
※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。



類似団体内順位 34/195 全国平均 13.1 新潟県平均 12.9

物件費の分析欄

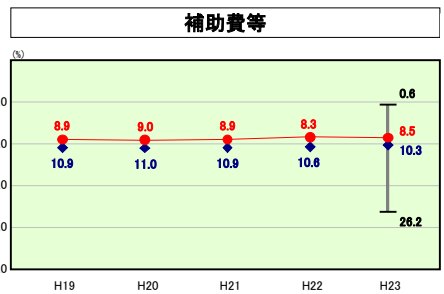
物件費総額としては前年比16.9%の増で、経常収支比率も平成20年度以降上昇傾向にある。要因としては、需要費の増加が前年比14.3%、委託料の増加が前年比23.7%となっており、増加分のほとんどを占めている。具体的には雇用創出事業に係る委託料の増加と保育園の公設民営化による指定管理制度への移行等によるものである。



類似団体内順位 50/195 全国平均 25.4 新潟県平均 23.3

人件費の分析欄

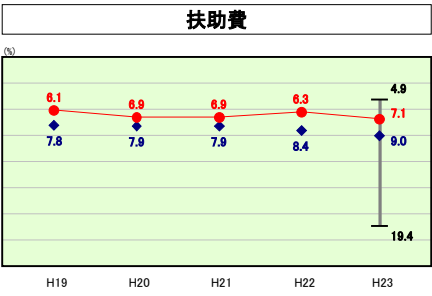
二度にわたる合併と広域水道企業団及び広域連合の継承により、職員数は類似団体平均値より多くなっていたが、定員管理適正化計画の実行により、職員数の減少とともに、人件費における経常収支比率は徐々に改善されてきている。今後も職員数の適正化と、行財政改革への取り組みを通じて人件費の削減に努める。



類似団体内順位 68/195 全国平均 10.1 新潟県平均 8.6

補助費等の分析欄

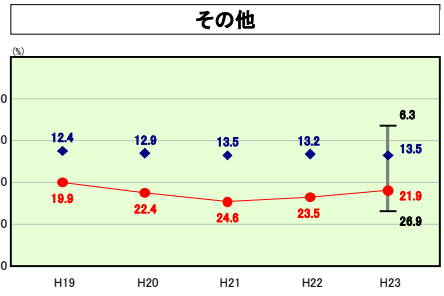
補助費等については、比率では類似団体平均のやや下方で推移している。平成23年度については、公営企業会計(水道事業・病院事業)への補助金が経常的な補助費等のうち56.0%を占めている。各団体等への補助・負担金も多額となっており、明確な基準の設定等により、見直しや廃止の検討も必要である。



類似団体内順位 34/195 全国平均 10.5 新潟県平均 8.1

扶助費の分析欄

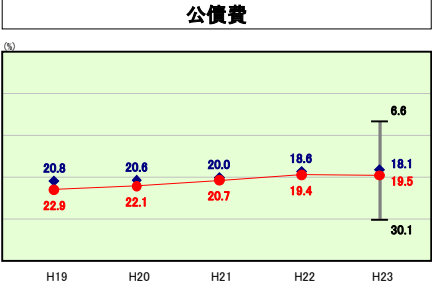
介護給付費の増、保育園保育委託料の増など、扶助費の総額が年々増加しており、経常一般財源への影響も現れている。資格審査の適正化や補助基準等の見直しにより財政への圧迫を緩和していく。



類似団体内順位 194/195 全国平均 12.2 新潟県平均 16.4

その他の分析欄

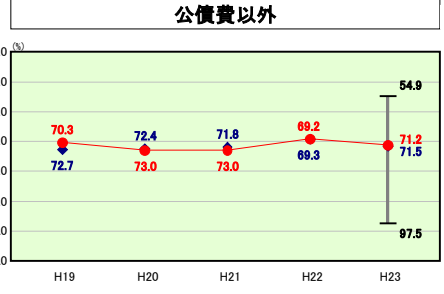
その他に係る経常収支比率については、維持補修費が5.7%、繰出金が16.2%で類似団体内では最も低い順位に近い。維持補修費中の74.8%を占める除雪経費と、繰出金中の45.7%を占める下水道特別会計への繰出金が比率を押し上げていた大きな原因となっている。下水道事業の完成は平成27年を一応の予定として現在も事業継続中であり、その後さらに5年程度は、それらの償還ピークが続くため、この高水準の比率が続くものと思われる。



類似団体内順位 132/195 全国平均 19.0 新潟県平均 19.4

公債費の分析欄

平成19年度以降の公的資金補償金免除繰上償還により、大きく利子負担を軽減できたが、市町村合併後の事業分も重なり、市立病院関連事業等の新規事業も見込まれることから、起債残高は増加傾向に転じている。基準財政需要額に算入される起債も多いが、今後も新規発行の抑制と優良債の活用等により公債費の削減に努める。



類似団体内順位 90/195 全国平均 71.3 新潟県平均 69.3

公債費以外の分析欄

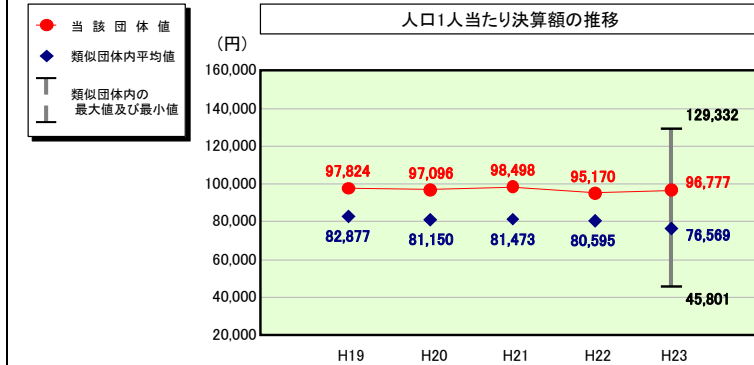
公債費以外の経常収支比率においては、類似団体平均値とほぼ同位置で推移している。公債費以外で上位を占めているのは、人件費、扶助費、物件費である。特に類似団体平均値と大きな開きがあり、低順位となっている「その他」における除雪経費、繰出金の削減が大きな課題である。

(4)-2 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

平成23年度

新潟県南魚沼市

人件費及び人件費に準ずる費用の分析



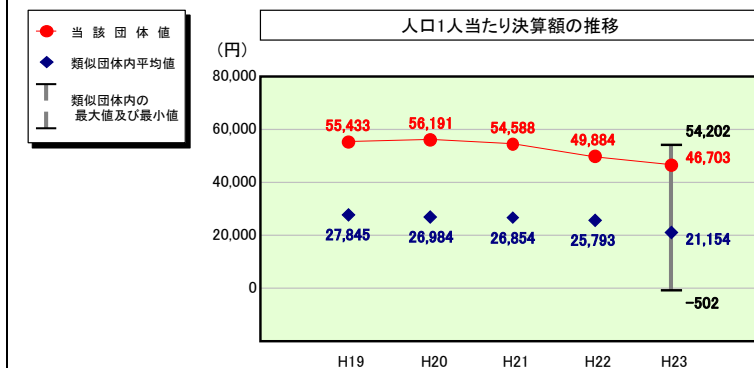
人件費及び人件費に準ずる費用

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体(円)	類似団体平均(円)	対比(%)
人件費	5,442,944	90,240	69,188	30.4
賃金(物件費)	412,659	6,842	4,522	51.3
一部事務組合負担金(補助費等)	58,976	978	5,753	▲83.0
公営企業(法適)等に対する繰出し(補助費等)	1,341	22	926	▲97.6
公営企業(法適)等に対する繰出し(投資及び出資金・貸付金)	-	-	3	-
公営企業(法非適)等に対する繰出し(繰出金)	189,768	3,146	3,026	4.0
事業費支弁に係る職員の人件費(投資的経費)	263,470	4,368	1,451	201.0
▲退職金	▲531,955	▲8,819	▲8,301	6.2
合計	5,837,203	96,777	76,569	26.4

参考

	当該団体	類似団体平均	対比(差引)
人口1,000人当たり職員数(人)	11.29	7.37	3.92
ラスパイレス指数	100.8	106.0	▲5.2

公債費及び公債費に準ずる費用の分析

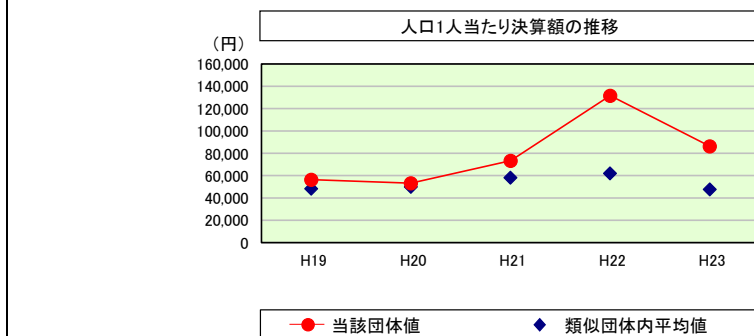


公債費及び公債費に準ずる費用(実質公債費比率の構成要素)

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体(円)	類似団体平均(円)	対比(%)
元利償還金の額 (繰上償還額等を除く)	4,049,394	67,136	44,862	49.7
積立不足額を考慮して算定した額	-	-	16	-
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの (年度割相当額)	-	-	44	-
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に 充てたと認められる繰入金	2,368,458	39,267	12,261	220.3
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる 補助金又は負担金	57,768	958	2,838	▲66.2
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	50,910	844	1,470	▲42.6
一時借入金利子 (同一団体における会計間の現金運用に係る利子は除く)	535	9	15	▲40.0
▲特定財源の額	▲337,981	▲5,604	▲5,472	2.4
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として 普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	▲3,372,145	▲55,908	▲34,880	60.3
合計	2,816,939	46,703	21,154	120.8

※平成24年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(参考) 普通建設事業費の分析



普通建設事業費

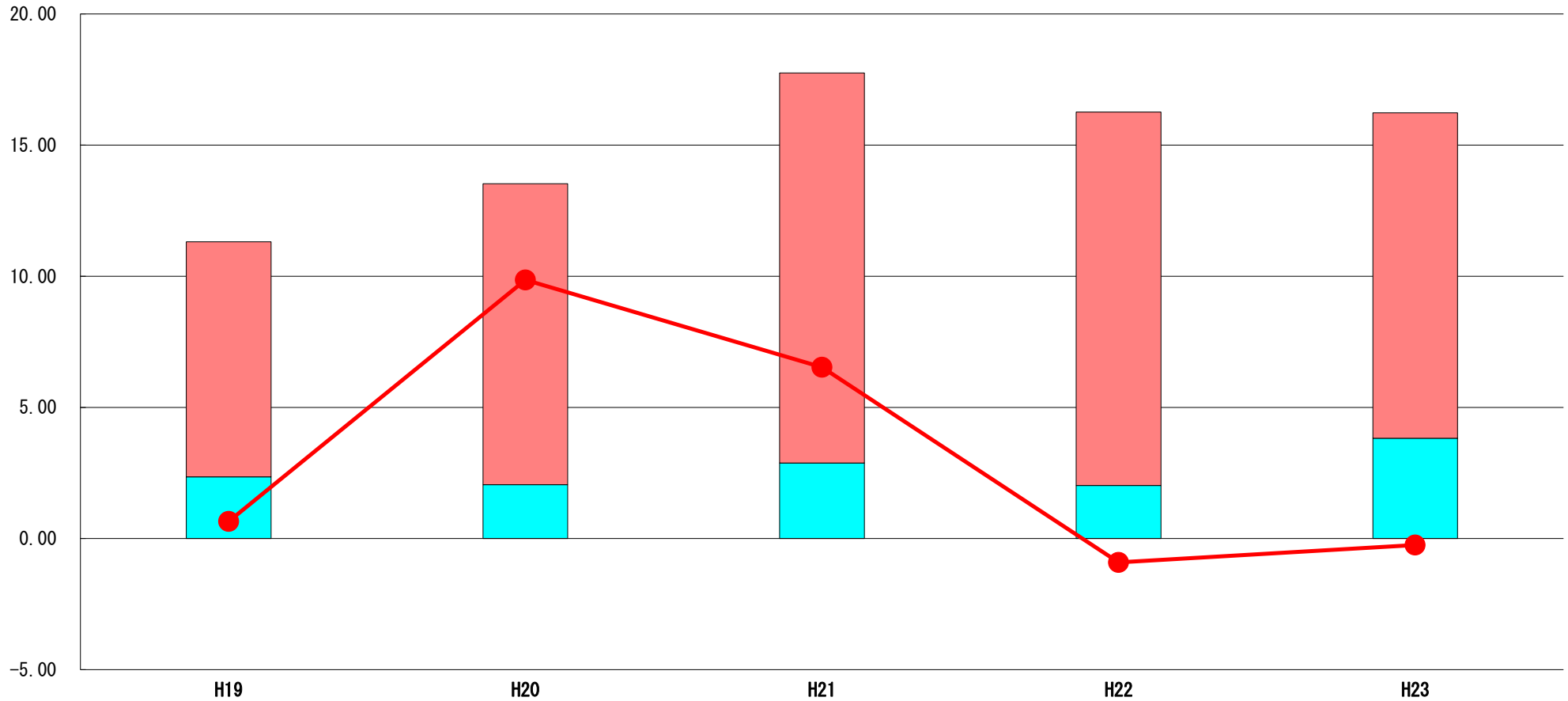
	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額				
		当該団体(円)	増減率(%) (A)	類似団体平均(円)	増減率(%) (B)	(A)-(B)
H19	3,500,211	56,400	▲3.0	48,408	▲7.7	4.7
うち単独分	2,106,586	33,944	▲1.2	26,937	▲11.7	10.5
H20	3,283,416	53,242	▲5.6	49,774	2.8	▲8.4
うち単独分	2,444,287	39,635	16.8	26,739	▲0.7	17.5
H21	4,490,798	73,393	37.8	58,009	16.5	21.3
うち単独分	2,806,242	45,863	15.7	32,190	20.4	▲4.7
H22	8,017,125	131,677	79.4	61,882	6.7	72.7
うち単独分	3,393,150	55,730	21.5	32,175	0.0	21.5
H23	5,210,699	86,390	▲34.4	47,569	▲23.1	▲11.3
うち単独分	3,095,574	51,323	▲7.9	26,255	▲18.4	10.5
過去5年間平均	4,900,450	80,220	14.8	53,128	▲1.0	15.8
うち単独分	2,769,168	45,299	9.0	28,859	▲2.1	11.1

(5) 実質収支比率等に係る経年分析（市町村）




平成23年度

新潟県南魚沼市

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

区分	年度	H19	H20	H21	H22	H23
 財政調整基金残高		8.96	11.48	14.87	14.24	12.41
 実質収支額		2.35	2.05	2.88	2.02	3.82
 実質単年度収支		0.65	9.86	6.53	▲ 0.91	▲ 0.25

分析欄

財政調整基金は順調に残高を伸ばし、平成22年度末で約28億円としたが、平成23年度は夏の豪雨災害や豪雪が重なったことが影響し、4億円を取り崩した。今後も突発的な事象に対処するため、一定額を確保するよう努める。

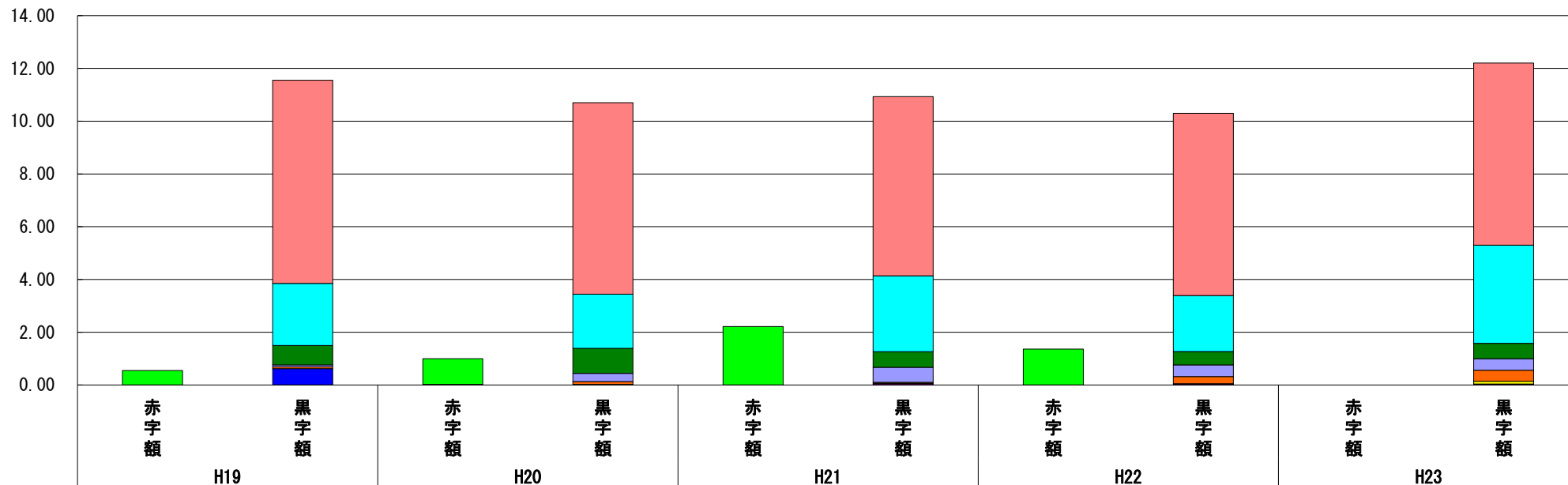
実質収支は、豪雨災害の関係で歳入歳出総額が大きく膨らんだことや、翌年度への繰越額との兼合いで、増加した。豪雨災害関連で、財政調整基金を4億円取り崩したことから、実質単年度収支は▲4,848万円となった。

(6) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（市町村）

平成23年度

新潟県南魚沼市

標準財政規模比（％）



標準財政規模比（％）

会計	年度	H19	H20	H21	H22	H23
水道事業会計		7.70	7.26	6.79	6.91	6.90
一般会計		2.35	2.05	2.88	2.12	3.72
国民健康保険特別会計		0.74	0.95	0.59	0.51	0.58
介護保険特別会計		0.07	0.31	0.57	0.44	0.44
下水道特別会計		0.07	0.11	0.04	0.27	0.42
城内診療所特別会計		-	-	-	-	0.10
後期高齢者医療特別会計		-	0.02	0.05	0.04	0.04
病院事業会計		▲ 0.55	▲ 0.98	▲ 2.22	▲ 1.36	0.00
その他会計（赤字）		-	▲ 0.02	-	-	-
その他会計（黒字）		0.62	0.00	0.01	0.01	-

分析欄

法適用の病院事業会計に対し、平成23年度は資金不足解消のための繰出しを行い、一時的ではあるが赤字を解消した。しかしながら今後も事業経営に対し注視が必要である。城内診療所については、23年度より病院事業会計から切り離し、特別会計として経理を行っている。他の会計は、概ね前年同様の黒字の状況となった。水道事業会計では、約13億円の剰余金を保持するものの、今後の施設更新計画による投資や繰入基準額の減による収入減などにより、徐々に剰余金は減少する見込みであり、経費節減に努め健全経営を維持する必要がある。

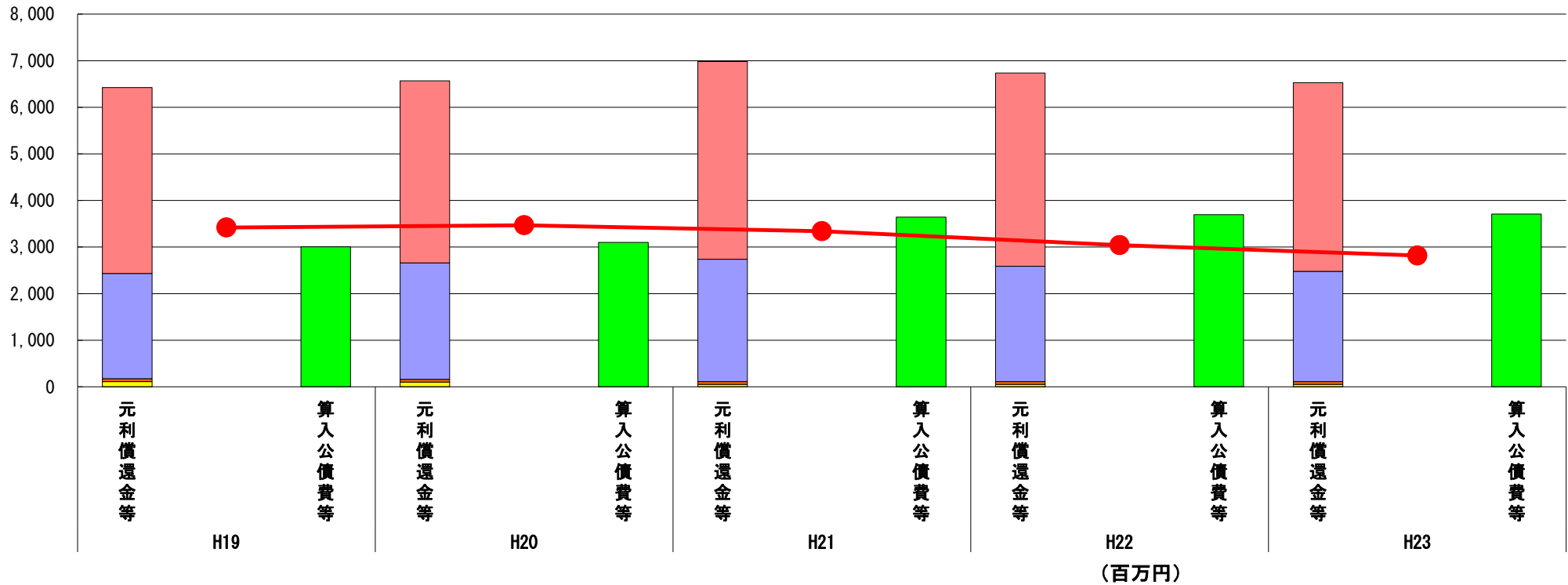
※平成24年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく連結実質赤字比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(7) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

平成23年度

新潟県南魚沼市

(百万円)



分子の構造		年度	H19	H20	H21	H22	H23
元利償還金等 (A)	元利償還金		3,989	3,910	4,243	4,147	4,049
	減債基金積立不足算定額		-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		-	-	-	-	-
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		2,260	2,497	2,628	2,477	2,368
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		61	60	59	59	58
	債務負担行為に基づく支出額		111	100	52	51	51
	一時借入金の利子		1	1	0	1	1
算入公債費等 (B)	算入公債費等		3,003	3,101	3,643	3,696	3,709
(A) - (B)	実質公債費比率の分子		3,419	3,467	3,339	3,039	2,818

分析欄

実質公債費比率の分子における「元利償還金等」は、普通会計における元利償還金と公営企業債の元利償還金に対する繰出金が大部分を占めている。

普通会計の元利償還金については、過去の比較的高利の起債が徐々に完済されてきているが、市町村合併後の合併特別債の元金償還が始まっており、起債額も大きいことから、今後は若干の上昇傾向となる見込みである。公営企業債の元利償還金に対する繰入金については、水道事業に対する繰出分が徐々に低下するものあと数年は負担が大きく、また、終盤を迎えている下水道整備もあることから、横ばい状態が続くものと思われる。

算入公債費等については、臨時財政対策債及び合併特別債の償還費に対する基準財政需要額算入額が増えてきていることにより、わずかに増加傾向を見込んでいる。このことにより、実質公債費の分子としてはここ数年の減少傾向からやや増加傾向へと転ずるものと思われる。

※平成19年度決算と平成20年度決算の元利償還金は特定財源の額を控除しており、満期一括償還地方債に係る年度割相当額は減債基金積立不足算定額を含んでいる。

※平成21年度決算以降の算入公債費等は特定財源の額を含んでいる。

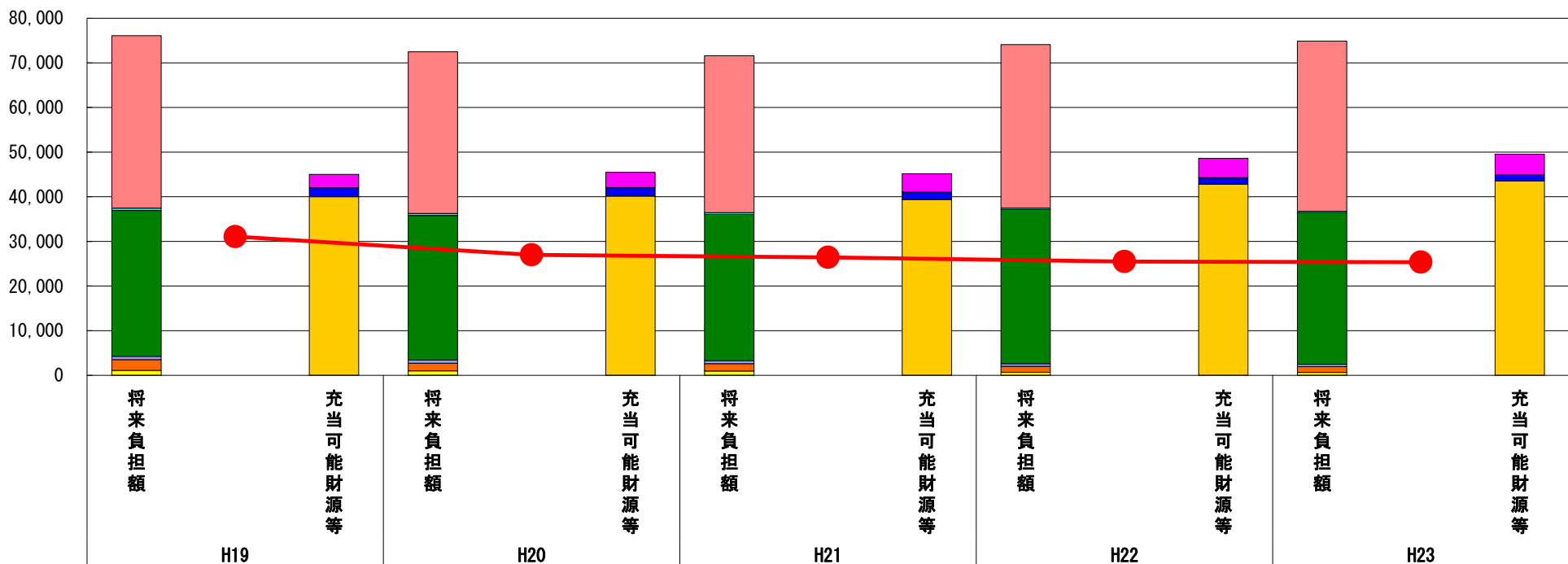
※平成24年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(8) 将来負担比率（分子）の構造（市町村）

平成23年度

新潟県南魚沼市

(百万円)



分子の構造		年度	H19	H20	H21	H22	H23
将来負担額 (A)	一般会計に係る地方債の現在高		38,630	36,212	35,178	36,642	38,129
	債務負担行為に基づく支出予定額		538	439	377	319	261
	公営企業債等繰入見込額		32,680	32,425	32,790	34,547	34,013
	組合等負担等見込額		738	695	641	586	542
	退職手当負担見込額		2,385	1,707	1,642	1,341	1,294
	設立法人等の負債額等負担見込額		1,118	1,000	979	668	634
	連結実質赤字額		-	-	-	-	-
	組合等連結実質赤字額負担見込額		-	-	-	-	-
充当可能財源等 (B)	充当可能基金		3,010	3,419	4,108	4,310	4,638
	充当可能特定歳入		1,996	1,932	1,664	1,476	1,327
	基準財政需要額算入見込額		40,001	40,140	39,395	42,827	43,563
(A) - (B)	将来負担比率の分子		31,083	26,987	26,441	25,489	25,345

分析欄

平成23年度の将来負担額については、全体の大部分を占める地方債現在高と公営企業債等繰入見込額のうち、地方債現在高では、合併特例債と臨時財政対策債の発行により前年比4.1%増加し、公営企業債等繰入見込額は、ほぼ前年並みとなっている。将来負担額全体もほぼ前年並みとなった。

一方、充当可能財源は公債費（主に臨時財政対策債と合併特例債）における基準財政需要額算入見込額の増加により、前年比微増となった。

結果として将来負担比率の分子としては前年比微減している。今後も新規発行は合併特例債が主流となるので、同様な傾向が続くものと思われる。

※平成24年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。